



「がんばれ!チーム大分」

事務局 〒870-8503 大分市府内町 3 丁目 10 番 1 号

大分県教育庁体育保健課内

TEL097-506-5642/FAX097-506-1812

第 72 回国民体育大会 冬季大会 「ながの銀嶺国体」

第 72 回国民体育大会冬季大会が長野県にて開催されました。厳しい練習環境に負けることなく 10 名の選手が「チーム大分」の代表として戦いました。第 72 回国民体育大会の先陣となる冬季競技の戦いの様子をお伝えします。

〈スケート競技〉平成 29 年 1 月 28 日～1 月 31 日「長野市若里多目的スポーツアリーナ」

スケート競技ショートトラック種目成年男子 500m・1000m に佐藤陽太郎選手（福岡大学）が出場しました。大学入学後から本格的にスケート競技を始め、今回が 2 回目の国体出場となりました。結果については、500m・1000m とともに健闘及ばず、予選を通過することはできませんでした。しかしながら、500m は昨年の予選順位を 1 つ上げ、1000m はタイムを更新するなど、最後まであきらめずに力強く滑りきった姿に「チーム大分」の一員としての責任と誇りを感じさせてくれました。今後の活躍を期待しています！



スタートする佐藤選手(中央)



スピードに乗った滑りの佐藤選手

スピードに乗った滑りの佐藤選手。結果については、500m・1000m とともに健闘及ばず、予選を通過することはできませんでした。しかしながら、500m は昨年の予選順位を 1 つ上げ、1000m はタイムを更新するなど、最後まであきらめずに力強く滑りきった姿に「チーム大分」の一員としての責任と誇りを感じさせてくれました。今後の活躍を期待しています！

〈スキー競技〉平成 29 年 2 月 15 日～2 月 17 日

「白馬八方尾根スキー場・白馬クロスカントリー競技場」

スキー競技は 9 名の選手が出場し、第 67 回大会以来 5 年ぶりに全員完走しました。大会初日と二日目は好天に恵まれ、見事な滑りはチーム大分の勢いを感じました。成年男子 B に出場した矢野心平選手（大分大学）は九州の出場選手の中では 1 番で、今後の活躍が期待できます。また、本県から 4 年ぶりのクロスカントリーに出場した荒金真太郎選手（豊後大野市消防本部）は、九州・四国から唯一の選手で、結団壮行式の「積み重ねた成果を出す」という決意表明通り、自己ベストの滑りでした。成年女子 B には、旗手を務めた山田美樹選手（ケイアイ設備サービス）が 2 年ぶりに出場し、前回より順位を 6 つ上げる健闘を見せてくれました。

最終日は、少年男子に多田遼生選手（大分東明高校）が出場しました。朝から雨が降り、多数途中棄権する選手が出る悪コンディションでしたが、堂々とした滑りで完走を果たしました。

スケート・スキー競技ともに入賞には届きませんでした。南国九州の厳しい環境の中、創意工夫した練習の成果を全員が発揮し、「チーム大分」の一員として堂々とした戦いぶりでした。冬季競技の健闘を、今年の愛媛国体につなげ、「チーム大分」復活へ向けて頑張りましょう！



「チーム大分」スキー競技の代表団

第 72 回 国民体育大会冬季大会 大分県代表団 成績一覧

種別	選手名	所属	成績	備考
《スケート》				
1月30日(月)				
成年男子	佐藤 陽太郎	福岡大学	予選5組 1分54秒713 組4位	ショートトラック1000m 敗退
1月31日(火)				
成年男子	佐藤 陽太郎	福岡大学	予選4組 57秒763 組5位	ショートトラック500m 敗退
《スキー》				
2月15日(水)				
成年男子A	杉本 和輝	立命館アジア太平洋大学	1分44秒73	98位 ジャイアントスラローム
成年男子B	矢野 心平	大分大学	1分33秒70	67位 ジャイアントスラローム
	森 祐貴	(株)NTTフィールドテクノ	1分54秒90	77位 ジャイアントスラローム
2月16日(木)				
成年男子C	西田 太一	別府医療センター	1分31秒40	90位 ジャイアントスラローム
	板井 元博	大分県警察	1分36秒89	95位 ジャイアントスラローム
	小関 祐治	河村クリニック	1分37秒91	97位 ジャイアントスラローム
	荒金 真太郎	豊後大野市消防本部	24分40秒5	48位 クロスカントリー
成年女子B	山田 美樹	(株)ケイアイ設備サービス	2分04秒55	47位 ジャイアントスラローム
2月17日(金) ジャイアントスラローム				
少年男子	多田 遼生	大分東明高校	2分00秒17	142位 ジャイアントスラローム



杉本和輝選手 (立命館アジア太平洋大学)



板井元博選手(監督兼任) (大分県警察)



西田太一選手 (別府医療センター)

チーム大分ジュニアアスリート発掘事業

昨年度多数の応募者から選考された30名が、今年度様々な研修を通して大きく成長しました。

発掘プログラム（全10回）では、ジュニア期に行うことで成果が大きく期待される運動能力開発プログラムのスタビリティトレーニングやコーディネーショントレーニング、知的プログラムではメンタルトレーニングやイメージトレーニングなどが行われました。また、保護者も参加した食育プログラムではアスリートに必要なエネルギーと食事量などを学び、調理実践（保護者調理）も行い理想のメニューづくりを体験するなど、アスリートとして必要な知識を得ることができました。宿泊研修は8月に九重青少年の家、1月に東京にてそれぞれ2泊3日で行いました。特に東京研修では、日本体育大学教授の山本博氏のオリンピック講話（アーチェリー競技）や県出身（関東で活動中）で東京オリンピック出場を目指している選手との交流会などでジュニアアスリートとしての自覚を更に深めることができました。

競技体験プログラム（全12回・各競技2回実施）では、6競技（ボート・アーチェリー・ホッケー・カヌー・ウエイトリフティング・ライフル射撃）を実施しました。競技団体の工夫を凝らした指導により、充実した体験ができました。

現在は選手・保護者と面談を終え、来年度以降の競技選択を検討しているところです。3月12日（日）の終了式をもって1期生は、各競技団体の活動に取り組んでいきます。各選手の今後の活躍を期待します！



運動能力開発プログラム



東京宿泊研修
(ナショナルトレーニングセンター前にて)



ボート体験



アーチェリー体験



ホッケー体験



カヌー体験



ウエイトリフティング体験



ライフル射撃体験

大分県競技力向上対策本部

第2回強化委員会

平成29年1月25日（水）に開催され、井上倫明副委員長（県体育保健課長）が、「岩手国体順位第38位という厳しい現実を直視させられ、忘れることのできない国体となったが、全ての競技で最後まで全力で戦っていただいたことに感謝しています。」とあいさつ。『岩手国体第38位の要因と分析について』『チーム大分復活に向けた強化策について』協議を行い、各委員からは「もう一つ上を目指すために、再度考えなければならない」「中・長期ビジョンを明確にし、組織で実施することが大切」「ピークパフォーマンスや医科学の活用」など多くの熱い思いが入った意見が出され、活発な会議となりました。



第2回強化委員会の様子

第2回本部委員会

平成29年2月17日（金）に開催され、はじめに二日市具正本部長（県副知事）が「岩手国体の結果を真摯に受け止め、悔しさを決して忘れずに、競技団体・関係機関との連携をより一層深め、チーム大分の復活を成し遂げたい。」とあいさつしました。その後、『岩手国体・各種大会の成績について』の報告と、『平成29年度事業計画・収支予算（案）』について協議を行いました。協議では、「女性アスリートの発掘・強化」「優秀指導者招聘」「長期・中期・短期戦略の策定と検証が重要」などの意見が出され、最後に二日市本部長が「愛媛国体では岩手国体の雪辱を果たすために、効果的な強化対策を行い、競技力向上に取り組んでいきたい。」と思いを述べて会を閉じました。



あいさつを述べる
二日市具正本部長（副知事）

～ 大分県競技力向上対策本部 事務局より ～

- 「がんばれ！チーム大分」Facebook ページを開設しています！ぜひ、ご覧ください。
(<https://www.facebook.com/team.oaita>)
- ・「チーム大分」の活躍の様子や競技力向上に向けた取組を発信しています
- 大分県教育委員会ホームページ (<http://kyouiku.oita-ed.jp/sports.html>)

Facebook ページ
QR コード ↓

